

高き志【こころざし】

「ありがとう」 感謝の気持ちを込めて

いよいよ令和3年度も終わろうとしています。3月4日に予定しておりましたPTA例会が中止となり、保護者の方々とお会いする機会がないままに本年度が終わってしまうことになりそうです。そこでまず、この紙面にて本年度のお礼をお伝えしたいと思います。コロナ禍の中での教育活動が二年目となり、今年度も様々な行事等が中止になったり、規模を縮小して行ったりせざるを得ませんでした。休校や学級閉鎖もありました。しかし、どうにか全学年ともに修学旅行や見学旅行は実施でき、教育課程を終了することができました。これも、保護者の皆様のご理解・ご協力とご支援によるものであると心から感謝しております。**本当にありがとうございました。**

さて、桜の開花も宣言され先週は急に暖かい日が続きました。暖かくなるのは嬉しいことですし、春が近づくと明るい気分にもなりますが、同時に、どこかで寂しさを感じる時期でもあります。それは、卒業で、子どもたちとの別れがあるからです。

私は実験において 失敗など 一度たりともしていない
 「これでは電球は光らない」という発見を
 今までに 二万回してきたのだ
 トーマス・エジソン

今日は、6年生の修了式でした。式では、昨年度も卒業生に送った、上のトーマス・エジソンの言葉を引用して話をしました。今年はそのに加え、学校便りで触れたことのある「落ちないりんご」の話も加えました。6年生は、私の学校便りを読んでくれているという話を担任の甲斐先生から聞いたからです。

「9割のりんごが落ちてしまった」という「事実」から、「1割のりんごが残っている」という「事実」に視点を替える。「強力な接着剤の開発に失敗した」という「事実」から、「弱い接着剤の開発に成功した」という「事実」に視点を替える。同じ「事実」なのですが、この視点の違いが結果に大きな差を生んだのです。考え方を替えて視点をポジティブな方に変えることで、大きく違った結果を生むことがあると言えます。

この二つの引用から私は次のような話をしました。

これらのことから二つのことが学べると思っています。一つは、失敗を重ねてもあきらめずに頑張れば成功につながるということ。もう一つは、物事を前向きに考えることが大切だということ。失敗の経験は、その後に成功するためのプロセスなのです。視点を前向きに変えれば、新しい道が開けてくることがあるのです。

明日に卒業式を控えた6年生は、真剣な眼差しを真っ直ぐに私に向け、話を聞いてくれました。卒業式でもきっと成長した立派な姿を見せてくれることと思います。これまで、高木小学校の顔として、学校を引っ張ってくれた13名の6年生。素晴らしい頑張りや、ほめてあげたいことはたくさんあります。それらは、明日の式辞の中で話をしようと思っています。この紙面では、最後にお礼の言葉を贈りたいと思います。13名の6年生に心を込めて伝えます。**「高木小をリードしてくれてありがとう」**

そして、この学校便りが私にとって最後の学校便りになります。これまで、一緒に頑張ってきた子供たち、学校教育を支えていただいた保護者の方々、様々な場面で学校を応援していただいた地域の方々、その他関わっていただいたすべての方々に心からお礼を申し上げ、最後のご挨拶といたします。**本当に本当に、ありがとうございました。**